# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 未来デザインプログラムII | | |
| 必修選択 | 選択 | (学則表記) | 未来デザインプログラムII | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | ①未来デザインプログラムII　ワークブック<br>②公認モチベーション・マネジャー資格　エントリーコース（ハンドブック） | | 出版社 | 一般社団法人<br>モチベーション・マネジメント協会 | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 学校や社会でおこる「不都合な現実」の乗り越え方を学ぶ |
| 到達目標 | 「公認モチベーション・マネジャー資格　エントリーコース」が取得できる。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 公認モチベーション・マネジャー資格　エントリーコース |
| 関連科目 | 未来デザインプログラムI |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 山口　沙織 | 実務経験 | |
| 実務内容 | | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | モチベーションを学ぶとは？ | 未来デザインプログラムIIの趣旨理解(モチベーションションタイプ) |
| 2 | 実習に行ってみよう | 「実習に行きたくない」時の乗り越え方(選択理論) |
| 3 | 何度でもチャレンジしてみよう | 「実習で何度もやり直しをしなくてはならない」時の乗り越え方(自己効力感①) |
| 4 | 保育観のズレを乗り越えよう | 「保育観の違い」を感じた時の乗り越え方(フィット理論) |
| 5 | 結果を受け止めよう | 「実習で厳しい評価を受けた」時の乗り越え方(チャンスフォーカス) |
| 6 | 働くということとは？ | 「働く意味がみえなくなった」時の乗り越え方(欲求階層説) |
| 7 | 理論を知る意味（復習） | モチベーション理論、未来デザインプログラムIIの前半で学んだことの振り返り |
| 8 | 不安を克服するには？ | 「就職活動に不安で踏み出せない」時の乗り越え方(自己効力感②) |
| 9 | 周囲との距離を縮めよう | 「周囲となじめない」時の乗り越え方(ジョハリの窓①) |

| | | |
|---|---|---|
| 10 | 先輩と良い関係を築くためには？① | 「先輩とうまくいかない①」時の乗り越え方(ジョハリの窓②) |
| 11 | 苦手なことと向き合おう | 「苦手なことと向き合えない」時の乗り越え方(目標設定理論) |
| 12 | やる気を高めるポイントとは？ | 「イベントにやる気が出ない」時の乗り越え方(期待理論) |
| 13 | 未来デザインプログラムⅡの振り返り&テスト | モチベーション理論、未来デザインプログラムⅡで学んだことの復習（知識確認） |
| 14 | 先輩と良い関係を築くためには？② | 「先輩とうまくいかない②」時の乗り越え方(タイムスイッチ) |
| 15 | 総まとめ | 全体のまとめ＆ハンドブックについての説明 |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 障害児保育 | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 障害児保育 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 2 | 60 |
| 使用教材 | 『アクティブ・ラーニング対応 エピソードから読み解く障害児保育』<br>『特別支援教育・保育概論 -特別な配慮を要する子どもの理解と支援』 | | 出版社 | 萌文書林 | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 障害児等の理解と保育における援助、指導計画及び個別の支援計画の作成、生活や遊びの環境、子ども同士の関係性、職員間の連携・協働について学ぶとともに、家庭・関係機関及び小学校等との連携・協働について理解し、保健・医療・福祉・教育の現状と課題を知る。 |
| 到達目標 | ①障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。<br>②個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。<br>③障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。<br>④障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関とその連携・協働について理解する。<br>⑤障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 尾島　幼子 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 幼稚園にて教諭として11年間勤務、保育園にて保育士として4年間勤務、小児病棟にて保育士として4年間勤務した実務経験を基に、障害児保育の現状と課題について教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 特別の支援を必要とする子どもの教育と障害児保育を支える理念① | オリエンテーション／障害の概念と障害児の教育・保育の歴史的変遷<br>インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組み |
| 2 | 特別の支援を必要とする子どもの教育と障害児保育を支える理念② | 障害のある子どもの地域社会への参加・包摂及び合理的配慮の理解<br>障害児保育の基本 |
| 3 | 障害児等の理解と教育・保育における発達の支援① | 肢体不自由児の理解と支援<br>知的障害児の理解と支援 |
| 4 | 障害児等の理解と教育・保育における発達の支援② | 視覚障害児・聴覚障害児の理解と支援<br>ことばの発達に障害のある子どもへの理解と支援 |
| 5 | 障害児等の理解と教育・保育における発達の支援③ | 重症心身障害児・医療的ケア児の理解と支援<br>病弱児の理解と支援 |
| 6 | 障害児等の理解と教育・保育における発達の支援④ | 発達障害児(ADHD, SLD)の理解と支援<br>発達障害児(ASD)の理解と支援 |
| 7 | 障害児等の理会と教育・保育における発達の支援⑤ | その他の特別な配慮を要する子どもの理解と支援 |
| 8 | 幼稚園及び保育所等における障害児その他の特別な配慮を要する子どもの教育・保育の実際① | 全体的な計画及び指導計画、個別の支援計画の作成 |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | 幼稚園及び保育所等における障害児その他の特別な配慮を要する子どもの教育・保育の実際② | 個々の発達を促す生活や遊びの環境／子ども同士の関わりと育ち合い／<br>障害児の教育・保育における子どもの健康と安全／職員間の連携・協働 |
| 10 | 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援方法 | 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容／「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」を作成する意義と方法／特別支援教育コーディネーター、関係機関、家庭と連携しながらの支援体制の構築 |
| 11 | 家庭及び自治体・関係機関との連携 | 保護者や家族に対する理解と支援／保護者間の交流や支え合いの意義とその支援／障害児支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関の連携・協働／小学校等との連携 |
| 12 | 障害その他の特別な配慮を要する子どもの保育にかかわる現状と課題 | 保健・医療における現状と課題／福祉・教育における現状と課題／支援の場の広がりとつながり／障害者の自立と就労支援 |
| 13 | 前期のまとめ① | 第1回から第12回までの振り返り① |
| 14 | 前期のまとめ② | 第1回から第12回までの振り返り② |
| 15 | 前期のまとめ③ | 第1回から第12回までの振り返り③ |
| 16 | エピソードから読み解く障害児保育① | 0歳児の発達（基礎理論） |
| 17 | エピソードから読み解く障害児保育② | 0歳児の発達（ケーススタディ） |
| 18 | エピソードから読み解く障害児保育③ | 1歳児の発達（基礎理論） |
| 19 | エピソードから読み解く障害児保育④ | 1歳児の発達（ケーススタディ） |
| 20 | エピソードから読み解く障害児保育⑤ | 2歳児の発達（基礎理論） |
| 21 | エピソードから読み解く障害児保育⑥ | 2歳児の発達（ケーススタディ） |
| 22 | エピソードから読み解く障害児保育⑦ | 3歳児の発達（基礎理論） |
| 23 | エピソードから読み解く障害児保育⑧ | 3歳児の発達（ケーススタディ） |
| 24 | エピソードから読み解く障害児保育⑨ | 4歳児の発達（基礎理論） |
| 25 | エピソードから読み解く障害児保育⑩ | 4歳児の発達（ケーススタディ） |
| 26 | エピソードから読み解く障害児保育⑪ | 5歳児の発達（基礎理論） |
| 27 | エピソードから読み解く障害児保育⑫ | 5歳児の発達（ケーススタディ） |
| 28 | エピソードから読み解く障害児保育⑬ | 6歳児の発達（基礎理論／ケーススタディ） |
| 29 | 後期のまとめ① | 第16回から第28回までの振り返り① |
| 30 | 後半のまとめ② | 第16回から第28回までの振り返り② |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 講義 | 科目名 | 子ども家庭福祉 | | |
| 必修選択 | 選択 | (学則表記) | 子ども家庭福祉 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | 『児童の福祉を支える 子ども家庭福祉』＜第２版＞吉田眞理 | | 出版社 | 萌文書林 | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史を知り、現代の制度や実施体系について理解する。子ども家庭福祉の現状について理解を深めながら、子どもの人権擁護についても考察していく。最後に今後の展開について解説し、学生とともに考える。 |
| 到達目標 | ①現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。<br>②子どもの人権擁護について理解する。<br>③子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。<br>④子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。<br>⑤子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 實方　徹平 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 認可保育所(公立･私立･夜間保育所)にて保育士として7年6か月勤務、放課後児童クラブにて児童指導員として6か月勤務、児童厚生施設の主に日祝に児童厚生員として10年間勤務、社会福祉法人にて本部職員として新規施設整備･運営を4年間サポートした実務経験を基に、現代社会における家庭福祉について体系的に教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 1年間の授業の流れをつかむ。 |
| 2 | 子ども家庭福祉の理念と概念① | 児童福祉法の理念と事例を通して概念を理解する。 |
| 3 | 子ども家庭福祉の理念と概念② | 子ども家庭福祉の課題・実践対象・方法について理解する。 |
| 4 | 子ども家庭福祉の歴史的変遷 | 海外と我が国の歴史的変遷を理解する。我が国の先駆者について知る。 |
| 5 | 現代社会と子ども家庭福祉 | 我が国の世帯構造の変化などを統計上確認し、家族のありようが子どもの育ちに影響することを理解する。 |
| 6 | 子どもの人権擁護① | 子どもの人権擁護の歴史的変遷や児童憲章を理解する。 |
| 7 | 子どもの人権擁護② | 児童の権利に関する条約の内容について理解する。 |

| | | |
|---|---|---|
| 8 | 子どもの人権擁護③ | 我が国の子どもの権利を守るしくみ、第三者評価事業・施設内での苦情解決のしくみなどを理解する。 |
| 9 | 子ども家庭福祉の制度と法体系① | 保育所を支える法体系、保育所設備運営基準、児童福祉法の枠組みについて理解する。 |
| 10 | 子ども家庭福祉の制度と法体系② | 児童虐待防止法による虐待の定義、予防及び早期発見の役割、行政の責任と市民の義務について理解する。 |
| 11 | 子ども家庭福祉の制度と法体系③ | 次世代育成対策推進法、その他の関係法について理解する。 |
| 12 | 子ども家庭福祉行財政と実施機関 | 厚生労働省、地方自治体、児童相談所の機能、要保護児童対策地域協議会の役割について理解する。 |
| 13 | 児童福祉施設等① | 児童福祉施設：乳児院、児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、母子生活支援施設の概要や入所理由、施設専門職等を理解する。 |
| 14 | 児童福祉施設等② | 児童福祉施設：障害児施設の枠組み、障害児入所施設、障害児通所施設（児童発達支援センター）の概要について理解する。 |
| 15 | 復習とまとめ | 前期のまとめと振り返りを行う。 |
| 16 | 児童福祉施設等③ | 地域に根ざした施設の役割として子育て短期支援事業を理解する。また児童福祉施設等の費用負担について理解する。 |
| 17 | 子ども家庭福祉の専門職・実施者 | 養護系施設、障害児施設、保育所で働く人たちを理解する。 |
| 18 | 住民による子ども家庭福祉活動 | 住民による子ども家庭福祉活動、家庭養育（里親・ファミリーホーム）、児童委員・主任児童委員について理解する。 |
| 19 | 子ども家庭福祉の現状と課題 | 少子化対策の流れを知る。子ども子育て支援新制度の社会的背景・ポイント、地域子育て支援事業について理解する。 |
| 20 | 母子保健と児童の健全育成 | 保健所や保健センターの役割、地域子育て支援事業、地域での健全育成について理解する。 |
| 21 | 多様な保育ニーズへの対応 | 地域における保育制度、保育の必要性に応じたサービス提供、認可外保育施設と多様な保育サービスについて理解する。 |
| 22 | 児童虐待、ドメスティックバイオレンスの防止 | 児童虐待の実態と対応、保育所保育指針による保育士の役割を理解する。 |
| 23 | 社会的養護 | わが国における社会的養護、社会的養護のプロセス、新しい社会的養育ビジョンについて理解する。 |
| 24 | 障害のある子どもへの対応<br>少年非行などへの対応 | 児童福祉法の定義、障害者権利条約と障害児、障害者差別解消法による合理的配慮について、障害児のための制度、発達障害について理解する。不登校・少年非行の対応について理解する。 |
| 25 | 貧困家庭・外国につながる子どもとその家族への支援 | 子どもの貧困対策法、子どもの貧困対策に関する大綱、生活困窮者自立支援制度、外国につながる家族への支援について理解する。 |
| 26 | ひとり親家庭、子どもと食育 | ひとり親家庭についての統計を確認し、支援のしくみを理解する。食事の実態や食育基本法、保育所保育指針との関係を理解する。 |
| 27 | 子ども家庭福祉の動向と展望 | 次世代育成支援対策推進法による子ども家庭福祉の推進、子ども若者への支援、子育て家庭への支援の動向として幼児教育・保育の無償化などについて理解する |
| 28 | 保育・教育・療育・保健・医療との連携とネットワーク、諸外国の動向 | 教育との連携、療育との連携、子育て世代包括支援センターの機能を理解する。諸外国の動向を知る。 |
| 29 | 後期まとめ | 後期のまとめを行う |
| 30 | 総まとめ | 後期のまとめと振り返りを行う |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 講義 | 科目名 | 子ども家庭支援論 | | |
| 必修選択 | 選択 | (学則表記) | 子ども家庭支援論 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | 『児童の福祉を支える 子ども家庭支援論」（第2版） | | 出版社 | 萌文書林 | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 子育て家庭に対する支援の意義と目的、保育の専門性を生かした支援の基本を理解する。子育て家庭に対する支援体制を知る。加えて、支援サービスや地域資源を活用した保育士の活動について学び、子育て家庭のニーズに応じた支援の展開と課題について考察する。 |
| 到達目標 | ①子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。<br>②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。<br>③子育て家庭に対する支援の体制について理解する。<br>④子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 宮里　美和子 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 保育士として保育園にて25年間勤務した実務経験を基に、子育て家庭に対する支援の意義と目的、保育の専門性を生かした支援の基本を教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 保育士が家庭支援を学ぶ意義について説明をする。今後の授業の進め方について説明する |
| 2 | 子ども家庭支援の意義と必要性① | 家庭とは |
| 3 | 子ども家庭支援の意義と必要性② | 現代のライフコースと家庭　離婚や再婚と親子関係 |
| 4 | 子ども家庭支援の目的と機能① | 養育・保護を目的とした子ども家庭支援機能 |
| 5 | 子ども家庭支援の目的と機能② | 休息・生活文化伝承・生命倫理感の醸成を視点とした子ども家庭支援機能 |
| 6 | 子どもの発達と家族① | 子どもの発達 |
| 7 | 子どもの発達と家族② | 子育てを通じた親の発達 |
| 8 | 子どもの発達と家族③ | 親の発達の実際 |
| 9 | 子どもの発達と家族④ | 親としての役割、子どもとしての役割 |

| | | |
|---|---|---|
| 10 | 保育士による子ども家庭支援の<br>意義と基本① | 福祉・保育の専門性を活かした支援 |
| 11 | 保育士による子ども家庭支援の<br>意義と基本② | 生活の場としての特性を活かした支援　　地域の施設としての専門性を活かした支援 |
| 12 | 子どもの育ちの喜びの共有① | 相談を通じた子どもの育ちの喜びの共有　　子どもの理解の促進 |
| 13 | 子どもの育ちの喜びの共有② | その子なりの成長を喜ぶ　共感信頼関係につなげる　保護者の自己尊重感を高める |
| 14 | 保護者及び地域が有する子育てを自ら<br>実践する力の向上に資する支援 | ストレングス視点・エンパワーメント実践を理解する |
| 15 | 保育士に求められる基本的態度① | 受容的関わり　秘密保持　個別化（バイスティックの原則をもとに教科書に沿って授業を行う） |
| 16 | 保育士に求められる基本的態度② | 非審判的態度　自己決定の尊重　（バイスティックの原則をもとに教科書に沿って授業を行う） |
| 17 | 家庭の状況に応じた支援① | 家庭状況のアセスメント　対応の検討 |
| 18 | 家庭の状況に応じた支援② | 支援方法の決定　家庭機能を念頭に置いた支援 |
| 19 | 地域資源の活用と自治体・関係機関等<br>との連携・協力 | 地域資源の活用　自治体・関係機関との連携・協力のポイント |
| 20 | 子育ての福祉を図るための社会資源 | 行政による家庭支援　地域の公共施設による家庭支援　多様な家族像と行政の動向 |
| 21 | 子育て支援施策 | エンゼルプランから子ども・子育てビジョン　子ども子育て支援新制度　待機児童の解消 |
| 22 | 次世代育成支援施策の推進 | 次世代育成支援対策推進法と子ども家庭支援　　次世代育成支援の活動・促進 |
| 23 | ワークライフバランス<br>男女共同参画 | 男女共同参画と家庭支援　子育て家庭のワークライフバランス |
| 24 | 子ども家庭支援の内容と対象 | 放課後の子どもの居場所 |
| 25 | 保育所等を利用する子どもの<br>家庭への支援① | 交流・相談支援 |
| 26 | 保育所等を利用する子どもの<br>家庭への支援② | 情報提供の支援　家族同士の話し合いの促進支援　グループ活動に向けた支援 |
| 27 | 地域の子育て家庭への支援 | 子育てしやすい地域づくり　社会変化へのはたらきかけ |
| 28 | 要保護児童等及びその家庭に<br>対する支援 | 要保護児童およびその家庭に対する支援と連携 |
| 29 | 子ども家庭支援に関する現状と課題 | 子育ての社会化・価値　近隣関係を通じた支援 |
| 30 | 総まとめ | まとめ |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 講義 | 科目名 | 社会的養護Ⅰ | | |
| 必修選択 | 選択 | (学則表記) | 社会的養護Ⅰ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | 『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』(改訂版) | | 出版社 | 萌文書林 | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 社会的養護の意義について、子どもの人権擁護や保育士等の倫理と責務を踏まえて理解する。歴史的変遷を辿り、今日の社会的養護の制度や実施体系、施設養護や家庭養護の実際を学ぶ。さらに、社会的養護の現状と課題について、施設運営管理や被措置児童等虐待防止、地域福祉との関係を踏まえて考察する。 |
| 到達目標 | ①現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。<br>②子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解する。<br>③社会的養護の制度や実施体系等について理解する。<br>④社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解する。<br>⑤社会的養護の現状と課題について理解する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 大野　貴洋 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 社会福祉士として児童相談所に4年間勤務した経験を基に、社会的養護の仕組みや、そこで生活する子どもたちの実情について、子どもの権利擁護の観点から教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の流れ，到達目標について |
| 2 | 現代社会における社会的養護の意義と変遷 | 社会的養護の理念と概念　社会的養護の歴史的変遷 |
| 3 | 子どもの権利擁護と社会的養護 | 社会的養護と子どもの権利 |
| 4 | | 施設保育士の倫理と責務　施設養護の現代的課題 |
| 5 | 家庭の機能と社会的養護 | 社会や家庭の役割　家庭の役割 |
| 6 | | 児童養護の体系 |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 社会的養護の基本原則Ⅰ　養育 | 施設養護における養育 |
| 8 | | 生活の規模 |
| 9 | 社会的養護の基本原則Ⅱ　保護 | 家庭からの保護 |
| 10 | | 外界からの保護 |
| 11 | 社会的養護の基本原則Ⅲ　子どもであることの回復 | 虐待された子どもの理解と対応 |
| 12 | | 心理療法担当職員との連携 |
| 13 | 社会的養護の基本原則Ⅳ　生活文化と生活力の習得 | 施設で生活文化を伝える意味 |
| 14 | | 生活力の習得　生活の中における専門性の発揮 |
| 15 | 社会的養護の基本原則Ⅴ　生命倫理観の醸成 | 入所児童の生活環境と生命倫理観 |
| 16 | | 専門職としての生命倫理 |
| 17 | 社会的養護の制度と実施体系 | 社会的養護の制度と法体系 |
| 18 | | 社会的養護の専門職・実施者　社会的養護の仕組みと実施体系 |
| 19 | 施設養護の対象・形態・専門職Ⅰ | 乳児院と児童養護施設① |
| 20 | | 乳児院と児童養護施設② |
| 21 | 施設養護の対象・形態・専門職Ⅱ | 障害児の入所施設　障害児入所施設における養護 |
| 22 | | 児童自立支援施設　児童心理治療施設 |
| 23 | 家庭養護の特徴・対象・形態 | 家庭養護とは　里親やファミリーホーム |
| 24 | | 家庭養護の特徴と社会的養護　里親の認定・登録・研修と里親の現状　里親ならではの悩み |
| 25 | 社会的養護の現状と課題 | 社会的養護に関する社会的状況　施設の運営管理　倫理の確立と保障 |
| 26 | | 被措置児童等の虐待防止　社会的養護と地域福祉　これからの児童福祉施設援助者 |
| 27 | 総まとめ① | 振り返りと総まとめ① |
| 28 | | 振り返りと総まとめ② |
| 29 | 総まとめ② | 振り返りと総まとめ③ |
| 30 | | 振り返りと総まとめ④ |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 講義 | 科目名 | 子ども家庭支援の心理学 | | |
| 必修選択 | 必修 | (学則表記) | 子ども家庭支援の心理学 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | スギ先生と考える子ども家庭支援の心理学 | | 出版社 | 萌文書林 | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 生涯発達と初期経験の重要性について理解するとともに、家族・家庭の理解や、子育て家庭に関する現状を理解する。 |
| 到達目標 | ・生涯発達に関する心理学の基礎知識及び、初期経験の重要性、発達課題等についての知識を習得する。<br>・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。<br>・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題を理解し、それに伴った支援方法を習得する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 尾形　優一 | 実務経験 | |
| 実務内容 | | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方について |
| 2 | 生涯発達から支援を考える　① | 乳幼児期の発達　① |
| 3 | 生涯発達から支援を考える　② | 乳幼児期の発達　② |
| 4 | 生涯発達から支援を考える　③ | 児童期の発達　① |
| 5 | 生涯発達から支援を考える　④ | 児童期の発達　② |
| 6 | 生涯発達から支援を考える　⑤ | 青年期の発達　① |
| 7 | 生涯発達から支援を考える　⑥ | 青年期の発達　② |
| 8 | 生涯発達から支援を考える　⑦ | 成人期の発達 |
| 9 | 生涯発達から支援を考える　⑧ | 高齢期の発達 |

| | | |
|---|---|---|
| 10 | 家族理解から支援を考える　① | 家族・家庭の意義と機能　① |
| 11 | 家族理解から支援を考える　② | 家族・家庭の意義と機能　② |
| 12 | 家族理解から支援を考える　③ | 親子関係・家族関係の理解 |
| 13 | 家族理解から支援を考える　⑥ | ライフコースと仕事・子育て状況　① |
| 14 | 家族理解から支援を考える　⑦ | ライフコースと仕事・子育て状況　② |
| 15 | 総まとめ　① | 振り返り・解説 |
| 16 | 家族理解から支援を考える　⑧ | ライフコースと仕事・子育て状況　③ |
| 17 | 多様な家族への支援を考える　① | 多様な家族の現状　① |
| 18 | 多様な家族への支援を考える　② | 多様な家族の現状　② |
| 19 | 多様な家族への支援を考える　③ | 多様な家族の現状　③ |
| 20 | 多様な家族への支援を考える　④ | 保護者の疾患や障害への配慮　① |
| 21 | 多様な家族への支援を考える　⑤ | 保護者の疾患や障害への配慮　② |
| 22 | 多様な家族への支援を考える　⑥ | 虐待への配慮　① |
| 23 | 多様な家族への支援を考える　⑦ | 虐待への配慮　② |
| 24 | 子どものこころへの支援を考える　① | 子どものストレス |
| 25 | 子どものこころへの支援を考える　② | 睡眠、食事、排泄に関わる症状　① |
| 26 | 子どものこころへの支援を考える　③ | 睡眠、食事、排泄に関わる症状　② |
| 27 | 子どものこころへの支援を考える　④ | 子どもに見られる症状　① |
| 28 | 子どものこころへの支援を考える　⑤ | 子どもに見られる症状　② |
| 29 | 子どものこころへの支援を考える　⑥ | 発達障害 |
| 30 | 総まとめ　② | 振り返り・解説 |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 子どもの食と栄養Ⅰ | | |
| 必修選択 | 選択 | (学則表記) | 子どもの食と栄養Ⅰ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | 子どもの食と栄養　改訂第３版 | | 出版社 | 中山書店 | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 小児期の食生活は生涯にわたる健康な生活を送るための基礎となるため、保育者として食を通じた子どもの<br>健全育成に携わる知識を身につける。 |
| 到達目標 | 1.健全な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。<br>2.子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。<br>3.養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容について理解する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | 子どもの食と栄養Ⅱ |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 喜多野　直子 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 病院にて病院栄養士として約2年間勤務、保育士試験対策講座講師として16年勤務した実務経験を基に、小児期の食生活に関する知識を教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の流れ、到達目標について |
| 2 | 第1章　子どもの健康と食生活① | 乳幼児の食生活の現状 |
| 3 | 第1章　子どもの健康と食生活② | 乳幼児の栄養アセスメント |
| 4 | 第1章　子どもの健康と食生活③ | 朝食欠食の問題と対応 |
| 5 | 第1章　子どもの健康と食生活④ | 偏食の弊害と対応 |
| 6 | 第1章　子どもの健康と食生活⑤ | 噛まない子の問題と対応 |
| 7 | 第1章　子どもの健康と食生活⑥ | 孤食の弊害と対応 |
| 8 | 第1章　子どもの健康と食生活⑦ | 世界の子どもたちの食生活 |
| 9 | まとめ・理解度確認 | まとめ・練習問題を実施して理解度を確認する |

| | | |
|---|---|---|
| 10 | 第2章　栄養・食に関する基本的知識 | 消化吸収の仕組み |
| 11 | 第2章　栄養・食に関する基本的知識① | 栄養の基礎知識 |
| 12 | 第2章栄養・食に関する基本的知識② | たんぱく質の代謝と栄養学的意義 |
| 13 | 第2章栄養・食に関する基本的知識③ | 糖質の代謝と栄養学的意義 |
| 14 | 第2章栄養・食に関する基本的知識④ | 脂質の代謝と栄養学的意義 |
| 15 | 第2章栄養・食に関する基本的知識⑤ | ビタミンの代謝と栄養学的意義 |
| 16 | 第2章栄養・食に関する基本的知識⑥ | ミネラルの代謝と栄養学的意義 |
| 17 | 第2章栄養・食に関する基本的知識⑦ | 食物繊維と水分 |
| 18 | 第2章栄養・食に関する基本的知識⑧ | 日本人の食事摂取基準の意義と活用 |
| 19 | 第2章栄養・食に関する基本的知識⑨ | 妊婦・授乳婦の食事摂取基準 |
| 20 | 第2章栄養・食に関する基本的知識⑩ | 乳幼児の食事摂取基準 |
| 21 | 第2章栄養・食に関する基本的知識⑪ | 学童・思春期の食事摂取基準 |
| 22 | まとめ・理解度確認 | まとめ・練習問題を実施して理解度を確認する |
| 23 | 第3章　子どもの発育・発達と栄養・食生活① | 授乳・離乳の支援ガイド |
| 24 | 第3章　子どもの発育・発達と栄養・食生活② | 乳幼児の咀嚼機能の発達と食事提供 |
| 25 | 第3章　子どもの発育・発達と栄養・食生活③ | 乳幼児の味覚機能の発達と食事提供 |
| 26 | 第3章　子どもの発育・発達と栄養・食生活④ | 乳幼児の消化吸収機能の発達と食事提供 |
| 27 | 第3章　子どもの発育・発達と栄養・食生活⑤ | 乳幼児期栄養 |
| 28 | 第3章　子どもの発育・発達と栄養・食生活⑥ | 学童・思春期の栄養 |
| 29 | まとめ・理解度確認 | まとめ・試験を実施して理解度を確認する |
| 30 | 総まとめ | 試験の振り返りと総まとめを行う |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 講義 | 科目名 | 保育の計画と評価 | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 保育の計画と評価 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | 保育の計画と評価ー豊富な例で１からかわる<br>幼稚園教育要領 保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 | | 出版社 | 萌文書林<br>チャイルド社 | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 保育における計画及び評価の重要性について理解する。保育の全体的な計画の編成と指導計画の作成について事例を通して、意義と方法を学ぶ。子ども理解に基づく保育の過程について（計画⇒実践⇒省察・評価⇒改善）その構造を捉え、保育内容の充実と質の向上について考える。 |
| 到達目標 | １．保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。<br>２．全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。<br>３．子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、理解する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 浦　裕美 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 保育園で保育士として15年勤務、保育園で園長として8年勤務した経験を基に、保育における計画と評価、保育内容の充実と質の向上について教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方、ねらい、評価方法説明 |
| 2 | 保育における計画と評価の意義 | 保育における計画と評価の意義について |
| 3 | カリキュラムの基礎理論 | カリキュラムの基礎理論について |
| 4 | 教育課程・保育課程の歴史と変遷 | 教育課程・保育課程の変遷とその社会的背景について |
| 5 | 社会の変化と保育に求められるもの | 平成29年の幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂とその背景について |
| 6 | 幼稚園における計画 | 幼稚園の目的、目標、5領域との関連について |
| 7 | 保育所・認定こども園における<br>教育・保育の計画 | 保育所・認定こども園の目的、目標、5領域との関連について |
| 8 | 教育課程の編成の実際 | 教育課程を編成する際に考慮すべき事項について |
| 9 | 子ども理解に基づく計画と評価 | 年齢ごとの一般的な発達過程、子どもの理解の観点の理解 |

| | | |
|---|---|---|
| 10 | 指導計画におけるねらいと内容 | 「ねらい」と「内容」の意味 |
| 11 | 第１回復習 | これまでの復習 |
| 12 | 指導計画案の作成と展開① | 長期の指導計画と短期の指導計画の特徴の違いについて |
| 13 | 指導計画案の作成と展開② | 3歳未満児の指導計画の作成について |
| 14 | 指導計画案の作成と展開③ | 3歳以上児の指導計画の作成について |
| 15 | 指導計画案の作成と展開④ | 食育計画、子育て支援計画、保健・安全に関する計画、行事の計画を学ぶ |
| 16 | 保育の省察および記録 | 子ども理解と記録の重要性について |
| 17 | 保育の評価と改善<br>PDCAサイクルの考え方 | 保育の実践の評価と、PDCAサイクルによる保育の質の向上について |
| 18 | 第２回復習 | これまでの復習 |
| 19 | 総復習 | 総復習 |
| 20 | 保育課程論　教材・指導案の研究① | 「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について |
| 21 | 保育課程論　教材・指導案の研究② | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究 |
| 22 | 保育課程論　教材・指導案の研究③ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究 |
| 23 | 保育課程論　教材・指導案の研究④ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究 |
| 24 | 保育課程論　教材・指導案の研究⑤ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究 |
| 25 | 保育課程論　教材・指導案の研究⑥ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究 |
| 26 | 保育課程論　教材・指導案の研究⑦ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究 |
| 27 | 保育課程論　教材・指導案の研究⑧ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究 |
| 28 | 保育課程論　教材・指導案の研究⑨ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究 |
| 29 | 保育課程論　教材・指導案の研究⑩ | 授業を通して学んだ内容を中心とした教材・指導案の研究 |
| 30 | 総まとめ | 授業のまとめ |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 乳児保育Ⅱ | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 乳児保育Ⅱ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | 『アクティブ・ラーニング対応 乳児保育 一日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践Ⅱ』 | | 出版社 | 萌文書林 | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 乳児保育Ⅰで学んだ基本的考え方を軸に、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わり方、配慮の実際を具体的に学ぶ。養護と教育の一体性を踏まえた3歳未満児の生活や遊び、保育方法、環境について、計画の作成や演習を通して具体的に学ぶ。 |
| 到達目標 | １、3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。<br>２、養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。<br>３、乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解する。<br>４、上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。<br>※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭においた保育を示す。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 保育士 |
| 関連科目 | 乳児保育Ⅰ |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 浦　裕美 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 保育園で保育士として15年勤務、保育園で園長として8年勤務した経験を基に、3歳未満児の発育･発達の過程や特性を踏まえた援助や関わり方、配慮の実際を具体的に教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 初回オリエンテーション | 流れ、到達目標の確認 |
| 2 | 乳幼児の基本 | 1.乳児保育とは<br>2.人的および空間的観点から捉える「養護」<br>3.時間的観点から捉える「養護」 |
| 3 | 子どもの主体性の尊重と自己の育ち | 1.生命の保持　2.情緒の安定 |
| 4 | 個々の子どもに応じた援助や<br>受動的・応答的関わり | 2.0歳児の保育内容　3. 年齢と発達過程 |
| 5 | 子どもの体験と学びの芽生え | 1.育みたい資質・能力　2.乳児期の終わりまでに育ってほしい姿 |
| 6 | 多様な保育 | 1.障害のある子の支援と保護者支援　　2.外国籍家庭などへの支援　　3.家庭の事情 |
| 7 | これまでの振り返り | 振り返りと復習、まとめ |
| 8 | 乳児保育における生活・<br>遊びの実際と援助 | 1.１日の流れで考えることの意味と必要性<br>2.１日の流れを意識した活動の計画と環境の構成<br>3.発達と個性の視点から１日の流れを考える |

| | | |
|---|---|---|
| 9<br>10<br>11 | ０歳児の発育・発達を踏まえた<br>生活・遊びの実際 | 1. 0 歳児保育で大切にしたいこと<br>2. 0 歳児の発達<br>3. 0 歳児の生活（気持ちの安定、睡眠・生活リズム、授乳・食事、おむつ交換・着替え）<br>4. 0 歳児の遊び |
| 12<br>13<br>14<br>15 | 1～３歳児未満児の発育・発達を踏まえた生活・遊びの援助の実際 | 1.健康　2.人間関係　3.環境　4.言葉　5.表現 |
| 16 | これまでの振り返り | 振り返りと復習、まとめ |
| 17 | 子ども同士の関わりと<br>その援助の実際 | 1.保育者との遊び　　2.子ども同士の遊び　　3.生活での子ども同士の関わり |
| 18 | 乳児保育における配慮の実際 | 1心身の健康への配慮　2.安全への配慮　3.情緒の安定を図るための配慮 |
| 19<br>20<br>21<br>22 | 実践編 | ベーシックワーク、エピソードワーク、ロールプレイワーク、解説 |
| 23 | これまでの振り返り | 振り返りと復習、まとめ |
| 24 | 集団での生活における配慮 | 1.運営上の基準と担当制による配慮　2.担当制による配慮　3.集団での生活リズム |
| 25 | 環境の変化や移行に対する配慮 | 1.家庭環境と園環境 |
| 26 | 実践　午後のお迎え・お帰り | ベーシックワーク、エピソードワーク、ロールプレイワーク、解説 |
| 27 | 乳児保育における計画と<br>実際 | 長期計画と短期計画 |
| 28 | 乳児保育における計画と<br>実際 | 個別的指導計画と集団の指導計画 |
| 29 | これまでの振り返り | 振り返りと復習、まとめ |
| 30 | まとめ | 総まとめ |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 子育て支援 | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 子育て支援 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | 『生活事例からはじめる子育て支援』 | | 出版社 | 青踏社 | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 子育て支援の原則をよく理解し、保育における相談や子育てに関する保護者の悩みへの対応について事例を考察しながら学び、保護者の子育て支援ができる知識と技術を身につける。 |
| 到達目標 | ①保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。<br>②保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 宮里　美和子 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 保育士として保育園にて25年間勤務した実務経験を基に、保護者の子育て支援ができる知識と技術を教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | ・授業の流れ、到達目標について |
| 2 | 子どもの保育とともに行なう保護者の支援 | ・保護者をコーディネーターに<br>・保育を通じて保護者への支援を行う |
| 3 | 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成① | ・保護者との相互理解<br>・信頼関係の形成 |
| 4 | 日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成② | |
| 5 | 保護者や家族の抱える支援のニーズへの気付きと多面的な理解 | ・保護者会からのニーズ把握　　・保護者の様子や会話からのニーズ把握<br>・子どもの様子からのニーズ把握 |
| 6 | 子ども・保護者が多様な他者とかかわる機会や場の提供 | ・他の家族、地域住民との関係調整　　・地域環境への働きかけ<br>・自治会等との連携・協力 |
| 7 | 子どもおよび保護者の状況・状態の把握 | ・事前の相互理解<br>・状況・状態の把握 |
| 8 | 支援の計画と環境の構成 | ・支援計画づくり<br>・支援計画の考え方 |
| 9 | 支援の実践と記録 | ・支援の実践<br>・記録の意味、種類、方法と留意点、開示と管理 |

| | | |
|---|---|---|
| 10 | 評価 | ・多角的な評価　・終結時の評価　・プロセス評価<br>・成果評価　・評価の活用 |
| 11 | カンファレンス | ・カンファレンスの目的と内容<br>・カンファレンスの方法 |
| 12 | 職員間の連携・協働 | ・保育士同士の連携　・他職種の職員との連携<br>・守秘義務と職員間の連携 |
| 13 | 社会資源の活用と自治体・関係機関との連携・協働 | ・社会資源の活用、調整、開発<br>・自治体・関連機関との協働 |
| 14 | 振り返り | 振り返りを実施する |
| 15 | 前期まとめ | 振り返りと前期のまとめを行う |
| 16 | 保育所等における支援① | ・家庭の実態を知り、子どもの最善の利益を守る<br>・子どもの実態を知り、子どもの立場を代弁する<br>・親子を知り、その関係をつなぐ　・連絡や通信による子育て支援<br>・気軽に相談できる場 |
| 17 | 保育所等における支援② | |
| 18 | 地域の子育て家庭に対する支援 | ・孤立の解消　・ストレスへの対応<br>・子育て不安への対応　・保育知識の提供 |
| 19 | 地域を舞台とした子育て支援 | ・地域住民の関係づくりを通じた子育て支援　・地域社会とのかかわりの促進<br>・保護者の自立への支援　・社会変化への働きかけ |
| 20 | 障害のある子どもおよびその家族に対する支援 | ・障害児の保護者への相談支援　・障害の受容への支援<br>・発達障害がある子どもへの保護者対応 |
| 21 | 特別な配慮を要する子どもおよびその家族に対する支援 | ・地域における特別な配慮へのニーズ把握　・施設入所の児童　・障害児における子育て支援<br>・福祉サービスを活用した支援　・外国につながる子ども |
| 22 | 子ども虐待の予防と対応 | ・虐待の早期発見と対応　・児童虐待への対応<br>・児童虐待の早期発見と対応　・虐待の類型と保護者支援 |
| 23 | 要保護児童等の家庭に対する支援 | ・社会資源を活用して保護者とともにとり組む<br>・連携できるネットワークをつくる　・自己決定を尊重する |
| 24 | 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 | ・個々のニーズに応じた家族支援　・「気になる」親子に潜む課題<br>・多様化する子育て支援の課題　・家族保全　・苦情への対応　・秘密の保持 |
| 25 | 保育士の行なう子育て支援の技術① | ・グループを活用した相談援助の過程、方法、技術<br>・地域環境に働きかける子育て支援の技術<br>・社会活動法(ソーシャルアクション)<br>・近隣集団会議<br>・ソーシャル・スキル・トレーニング |
| 26 | 保育士の行なう子育て支援の技術② | |
| 27 | 保育士の行なう子育て支援の技術③ | |
| 28 | 保育士の行なう子育て支援の技術④ | |
| 29 | まとめ | 後期まとめ確認を行う |
| 30 | 後期まとめ | 振り返りと後期のまとめを行う |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 講義 | 科目名 | 教育相談 | | |
| 必修選択 | 選択 | (学則表記) | 教育相談 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | スギ先生と学ぶ　教育相談のきほん | | 出版社 | 萌文書林 | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 幼児、児童の抱える様々な問題に対して解決のための支援は、教師の大切な役割の一つである。本講義では教育相談の理論や方法、心得ておくべきカウンセリングの基礎知識とその方法を身につける。 |
| 到達目標 | 1.子どもの発達や心の問題とその背景を理解し、カウンセリングマインドを活かして、子どもや保護者とかかわる姿勢を習得する。<br>2.保育に活かす教育相談の理論や具体的な進め方について習得する。<br>3.他者の気持ちを想像する力を高めるなど、保育者としての傾聴・受容の知識及び技術を習得する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 佐藤　亮太郎 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 大学附属相談室や小学校･中学校にて、相談員や支援員として、5年間携勤務した実務経験を基に、教育相談の理論や方法、カウンセリングの基礎知識を教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | 授業の進め方について　　教育相談を学ぶ意味 |
| 2 | 教育相談とは　① | 教育相談の意義 |
| 3 | 教育相談とは　② | 園における様々な教育相談の形 |
| 4 | 子ども理解 | 子ども理解の方法 |
| 5 | 保護者への支援 | 保護者理解とは　　保護者理解のポイント |
| 6 | カウンセリングマインド　① | ロジャーズの来談者中心療法 |
| 7 | カウンセリングマインド　② | 保育者とカウンセリングマインド |
| 8 | カウンセリング技法 | 傾聴とは何か　　言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション |
| 9 | 教育相談体制 | 園内の教育相談体制　　特別支援教育コーディネーターとは |

| | | |
|---|---|---|
| 10 | 外部機関との連携 | 連携する専門機関　　連携の留意点 |
| 11 | 保育者のメンタルヘルス　① | 保育者のストレスとは |
| 12 | 保育者のメンタルヘルス　② | 医療・福祉専門職のメンタルヘルス |
| 13 | 保育におけるカウンセリング　① | 子育てに耳を傾けることの意味 |
| 14 | 保育におけるカウンセリング　② | カウンセリング（面接）方法 |
| 15 | 総まとめ　① | 振り返り　解説 |
| 16 | 情報の伝達　① | 伝達のための適切な言葉とは |
| 17 | 情報の伝達　② | 通信を利用した情報提供の仕方　① |
| 18 | 情報の伝達　③ | 通信を利用した情報提供の仕方　② |
| 19 | 子ども理解と保護者支援　① | 教育現場における行動療法　① |
| 20 | 子ども理解と保護者支援　② | 教育現場における行動療法　② |
| 21 | 就学相談　① | 就学相談とは |
| 22 | 就学相談　② | 就学相談と面接 |
| 23 | アセスメント　① | 他者理解とアセスメント |
| 24 | アセスメント　② | 多様なアセスメント方法 |
| 25 | 気になる子ども・保護者への対応　① | 「問題行動」とは |
| 26 | 気になる子ども・保護者への対応　② | いじめのメカニズム |
| 27 | 気になる子ども・保護者への対応　③ | 登園しぶりをする子どもについて |
| 28 | 社会性の発達のつまずきとその理解　① | つまずきに関連する障害の病理や特徴 |
| 29 | 社会性の発達のつまずきとその理解　② | 教育現場における合理的配慮 |
| 30 | 総まとめ　② | 振り返り　解説 |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 教育の方法と技術 | | |
| 必修選択 | 選択 | (学則表記) | 教育の方法と技術 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | 実践につながる　新しい幼児教育の方法と技術 | | 出版社 | ミネルヴァ書房 | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | ・子どもの学びを支える教育方法や教育技術、教育目標や教授方法などについて理解する。<br>・学校現場におけるツールを効果的に活用した教育計画、実施、教材の開発、授業評価に関わる知識と技術を習得する。<br>・教師を目指す学生自身のICT活用能力を高める。<br>・教育的な実践力を身に付ける。 |
| 到達目標 | ①西洋と日本における保育と幼児教育の歴史的な流れを理解し説明ができる。<br>②保育と幼児教育に関する基本事項を理解し説明できる。<br>③各種情報メディアの活用法について学び実践ができる。<br>④これからの社会に対応できるような保育と幼児教育のあり方について考え発表することができる。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 野口　聡子 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 幼稚園教諭として私立幼稚園にて8年間勤務した実務経験を基に、教育方法や技術を教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | オリエンテーション |
| 2 | 教育方法・技術に関する<br>諸概念の理解 | 子どもの学びと関係を踏まえて教育の方法や技術がなぜ必要なのかについて学ぶ |
| 3 | 教育方法の理論と歴史 | 「環境指導法」を通して幼児教育の歴史と意義について学ぶ |
| 4 | 教授組織と学習組織の諸形態 | 「造形」を例にして幼児教育を支える教師の役割や発達に即した集団での学びの意義について学ぶ |
| 5 | 授業における教師の役割と指導技術<br>① | 「身体表現」を例にして授業設計や保育者の技術について学ぶ |
| 6 | 授業における教師の役割と指導技術<br>② | 「音楽」を例にして授業設計や保育者の技術について学ぶ |
| 7 | これまでのまとめ | まとめ |
| 8 | 授業における教師の役割と指導技術<br>③ | 「言葉」を例にして授業設計や保育者の技術について学ぶ |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | 授業における教師の役割と指導技術④ | 「算数」を例にして授業設計や保育者の技術について学ぶ |
| 10 | 授業における教師の役割と指導技術⑤ | 「理科」を例にして授業設計や保育者の技術について学ぶ |
| 11 | 授業の設計・実施・評価 | 「総合学習」から授業の目標づくりや学習指導案の作成について理解を深める |
| 12 | 学校におけるICT環境 | 高度情報化社会、コンピュータの特性と学校での活用について学ぶ |
| 13 | これまでのまとめ | まとめ |
| 14 | 授業実践能力の改善と向上 | 「外国にルーツを持つ子ども」を例としてICTの活用法について学ぶ |
| 15 | 障害のある子どもへの理解 | 発達に何らかの障害がある子どもに対する対応の仕方を学ぶ |
| 16 | 虐待された子どもに対する対応 | 児童虐待について理解を深め、子どもに対する支援教育の方法を学ぶ |
| 17 | 教育における評価 | 指導計画の立て方とその評価方法について学ぶ |
| 18 | 「教育の方法と技術」の課題とまとめ | 全体を振り返りながら「教育の方法のと技術」の今後の課題について考える |
| 19 | これまでのまとめ | 総復習 |
| 20 | 教育方法・技術に関する諸概念の理解、教育方法の理論と歴史 | 子どもの学びと関係を踏まえて教育の方法や技術がなぜ必要なのかについて学ぶ<br>「環境指導法」を通して幼児教育の歴史と意義について学ぶ |
| 21 | 教授組織と学習組織の諸形態 | 「造形」を例にして幼児教育を支える教師の役割や発達に即した集団での学びの意義について学ぶ |
| 22 | 授業における教師の役割と指導技術 | 「身体表現」「音楽」「言葉」「算数」「理科」を例にして授業設計や保育者の技術について学ぶ |
| 23 | 授業の設計・実施・評価 | 「総合学習」から授業の目標づくりや学習指導案の作成について理解を深める |
| 24 | これまでのまとめ | まとめ |
| 25 | 学校におけるICT環境 | 高度情報化社会、コンピュータの特性と学校での活用について学ぶ |
| 26 | 授業実践能力の改善と向上 | 「外国にルーツを持つ子ども」を例としてICT活用法について学ぶ |
| 27 | 障害のある子どもへの理解 | 発達に何らかの障害がある子どもに対する対応の仕方を学ぶ |
| 28 | 虐待された子どもに対する対応 | 児童虐待について理解を深め、子どもに対する支援教育の方法を学ぶ |
| 29 | 教育における評価 | 指導計画の立て方とその評価方法について学ぶ |
| 30 | 年間総復習 | 総復習 |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 講義 | 科目名 | 子どもの保健 | | |
| 必修選択 | 選択 | (学則表記) | 子どもの保健 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | 子どもの保健と安全 | | 出版社 | 教育情報出版 | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 子どもの特徴、発育・発達の様子を知る。<br>子どもに多い疾患や事故に対する予防法・予防策・望ましい安心安全な環境づくりについて学ぶ。 |
| 到達目標 | 1．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。<br>2．子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。<br>3．子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。<br>4．子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 杉戸　真貴子 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 大学附属病院にて看護師として3年勤務した実務経験を基に、子どもの疾病、子どもに多い症状、予防接種について教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 1章　子どもの心身の健康と保健の意義 | 1節　保健活動の意義と目的 |
| 2 | 1章　子どもの心身の健康と保健の意義 | 2節　健康の概念と健康指数 |
| 3 | 1章　子どもの心身の健康と保健の意義 | 3節　現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 |
| 4 | 1章　子どもの心身の健康と保健の意義 | 4節　地域における保健活動と子どもの虐待防止 |
| 5 | 2章　子どもの保健の諸統計 | 1節　子どもの保健と人口統計 |
| 6 | 2章　子どもの保健の諸統計 | 2節　少子化時代における子どもの保健と出生率 |
| 7 | 2章　子どもの保健の諸統計 | 3節　母子保健（周産期）と、子どもの保健と死亡率 |
| 8 | 2章　子どもの保健の諸統計 | 4節　子どもの年齢別にみた事故・けが・病気の予防 |
| 9 | 3章　子どもの心身の発達とその評価 | 1節　発達の順序と連続性<br>2節　発達の臨界期と基本的方向性 |

| | | |
|---|---|---|
| 10 | 3章　子どもの心身の発達とその評価 | 3節　子どもの精神発達 |
| 11 | 3章　子どもの心身の発達とその評価 | 4節　子どもの心身の健康状態とその把握 |
| 12 | 4章　子どもの生理機能の発達 | 1節　生体の成り立とホメオスタシス<br>2節　子どもの呼吸と呼吸数 |
| 13 | 4章　子どもの生理機能の発達 | 3節　乳幼児突然死症候群（SIDS） |
| 14 | 4章　子どもの生理機能の発達 | 4節　子どもの体温 |
| 15 | 4章　子どもの生理機能の発達 | 5節　子どもの血液・循環・脈拍数 |
| 16 | 4章　子どもの生理機能の発達 | 6節　子どもの消化吸収と排泄 |
| 17 | 4章　子どもの生理機能の発達 | 7節　子どもの睡眠とホルモン |
| 18 | 5章　子どもの脳神経系の発達 | 1節　子どもの脳神経系のしくみ<br>2節　神経細胞と髄鞘化 |
| 19 | 5章　子どもの脳神経系の発達 | 3節　子どもの脳神経系の発達と反射 |
| 20 | 6章　子どもの運動機能の発達とその評価 | 1節　子どもの運動機能の発達<br>2節　運動発達の方向性 |
| 21 | 6章　子どもの運動機能の発達とその評価 | 3節　子どもの運動発達の評価 |
| 22 | 7章　子どもの感覚の発達とその評価 | 1節　子どもの視覚の発達 |
| 23 | 7章　子どもの感覚の発達とその評価 | 2節　子どもの聴覚の発達 |
| 24 | 7章　子どもの感覚の発達とその評価 | 3節　子どもの味覚・嗅覚・触覚の発達 |
| 25 | 8章　子どもの歯の発達とケア | 1節　子どもの乳歯と永久歯の発達<br>2節　子どもの歯の健康状態 |
| 26 | 8章　子どもの歯の発達とケア | 3節　子どもの歯の健康管理 |
| 27 | 9章　子どもの病気と予防・手当 | 1節　子どもの病気 |
| 28 | 9章　子どもの病気と予防・手当 | 2節　子どもと先天性異常 |
| 29 | 9章　子どもの病気と予防・手当 | 3節　子どもと呼吸器の病気 |
| 30 | 9章　子どもの病気と予防・手当 | 4節　子どもと循環器の病気 |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 音楽表現III | | |
| 必修選択 | 選択 | (学則表記) | 音楽表現III | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 2 | 60 |
| 使用教材 | 幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 -感性と実践力豊かな保育者へ<br>保育のためのやさしい子どもの歌ー弾き歌い・合奏・連弾・合唱 | 出版社 | 萌文書林<br>ミネルヴァ書房 | | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | ・音楽表現活動を豊かに展開するために必要な基礎的知識と技術を身に付ける。<br>・子どもの経験・実態に応じた、音楽表現と関連付ける遊びの展開を習得する。 |
| 到達目標 | 保育者として必要な音楽技術や楽典の知識を習得し、それを基に演奏(表現)ができる。<br>音楽教育のメソッドを理解し、子どもの音楽遊びの展開を習得する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 保育士 |
| 関連科目 | 音楽表現Ⅰ・音楽表現Ⅱ・音楽表現Ⅳ |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 村上　陽子 | 実務経験 | |
| 実務内容 | | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>音楽の基礎知識の復習 | 授業ガイダンス　・音名　・音程の復習 |
| 2 | 音楽の基礎知識① | 音階と調性 |
| 3 | 音楽の基礎知識② | 音階と調性　ルート音による伴奏 |
| 4 | 和音とコードネーム① | 三和音（長三和音・短三和音）の構成　・三和音のコードネームの表記法など |
| 5 | 和音とコードネーム② | 音階上にできる三和音、和音記号、コードネーム　・主要三和音と和音機能、カデンツなど |
| 6 | 和音とコードネーム③ | 副三和音　・四和音、属七の和音など |
| 7 | 和音とコードネーム④ | 和音の転回形など |
| 8 | まとめ | コード理論のまとめ |
| 9 | 子どもと楽しむ打楽器① | 楽器の特徴と奏法① |
| 10 | 子どもと楽しむ打楽器② | 楽器の特徴と奏法② |

| | | |
|---|---|---|
| 11 | コード伴奏法① | コード伴奏法の実践　～コード付け～ |
| 12 | コード伴奏法② | コード伴奏法の実践　～転回形～など |
| 13 | コード伴奏法③ | コード伴奏法の実践　～伴奏付けにおいて楽曲にふさわしい伴奏形についての理解～など |
| 14 | まとめ | コード伴奏法のまとめ |
| 15 | 移調・移旋・転調① | 子どもたちが歌いやすい高さに変える方法について<br>移調　移旋　転調について学ぶ |
| 16 | 移調・移旋・転調② | 移調　移旋　転調について学ぶ　・コード伴奏法の実践 |
| 17 | 移調・移旋・転調③ | 移調　移旋　転調について学ぶ　・コード伴奏法の実践　　・移調奏のまとめ |
| 18 | 保育現場におけるピアノの枠割と表現① | 歌唱の伴奏としての役割　・想像を促し、子どもの表現を導く楽器表現として　・絵本や劇中の効果音として |
| 19 | 保育現場におけるピアノの枠割と表現② | 合奏の１パートや伴奏として　・言葉の環境づくりとして　・行事での奏楽やBGMとして　・歌（メロディー）の創作 |
| 20 | 保育現場におけるピアノの枠割と表現③ | まとめ |
| 21 | 楽器遊びを中心にした表現活動① | サウンドマップ　・サウンドスケープ　・いろいろな楽器やリズムに親しむ |
| 22 | 楽器遊びを中心にした表現活動② | 日常の楽器遊びからアンサンブルへ　・ボイスアンサンブル・リズムアンサンブル |
| 23 | 表現遊びを中心にした表現活動 | まとめ |
| 24 | 4・5歳児を対象とした音楽遊びの計画 | 4・5歳児を対象とした音楽遊びの指導計画実例　　・視覚的教材を用いた活動 |
| 25 | 4・5歳児を対象としたリトミックを用いた音楽遊びの計画① | 4・5歳児を対象としたリトミックを用いた音楽遊びの指導計画実例～フレーズを用いて～ |
| 26 | 4・5歳児を対象としたリトミックを用いた音楽遊びの計画② | 4・5歳児を対象としたリトミックを用いた音楽遊びの指導計画実例～拍子を感じて～ |
| 27 | 指導実践 | 各回内容の実践 |
| 28 | 指導実践 | 各回内容の実践 |
| 29 | 音楽遊びの模擬指導実践 | 模擬保育の指導計画立案と発表 |
| 30 | 音楽遊びの模擬指導実践とまとめ | 模擬保育の指導計画立案と発表　一年の総まとめと振り返り |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 造形表現Ⅱ | | |
| 必修選択 | 選択 | (学則表記) | 造形表現Ⅱ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 2 | 60 |
| 使用教材 | 幼児造形の基礎 | | 出版社 | 萌文書林 | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | ①豊かな造形表現が育まれるプロセスを知る。<br>②豊かな造形表現が育まれる指導法を知る。<br>③子ども惹をきつける保育教材の作成法を身につける。<br>④保育者として必要な自身の感性を磨く。 |
| 到達目標 | ①幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえ、時期を追った子どもたちの活動内容が理解できるようになる。<br>②幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた指導計画を立てることができるようになる。<br>③造形技法、道具、素材を使って、保育教材が作成できるようになる。<br>④いろいろなものの美しさを感じとることができるようになる。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | 造形表現Ⅰ・造形表現Ⅲ |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 岡崎　律子 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 保育士･特別支援学級支援員として、保育園･病児保育室･小学校にて20年間携勤務した実務経験を基に、幼児期の造形表現に関する発展的な学びを教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>幼児造形とは | 授業「造形表現Ⅱ」の概要説明、及び年間計画提示、幼児の造形教育のねらいの理解 |
| 2 | 幼児の造形教育の方法① | 素材からの造形表現・描画材の種類Ⅰ（絵の具・クレパス）（造形表現Ⅰの復習）と技法指導 |
| 3 | 幼児の造形教育の方法② | 素材からの造形表現・描画材の種類Ⅱ（マーカー・ペン・色鉛筆他）（造形表現Ⅰの復習）と技法指導 |
| 4 | 幼児の造形教育の方法③ | 紙とハサミの指導法実践 |
| 5 | 幼児の造形教育の方法④ | 子どもの表現を生み出す人的な環境としての保育者の役割の理解 |
| 6 | 幼児の造形教育の方法⑤ | 子どもの主体性を生かす保育の理解 |
| 7 | 幼児の造形教育の方法⑥ | 模擬保育を行う意義の理解 |
| 8 | 幼児の造形教育の方法⑦ | 造形に関する模擬保育の実践 |

| | | |
|---|---|---|
| 9 | 幼児造形教育への実践① | 造形に関する模擬保育の実践 |
| 10 | 幼児造形教育への実践④ | 保育教材の意義の理解 |
| 11 | 幼児造形教育への実践⑤ | 保育教材の作成 |
| 12 | 幼児造形教育への実践⑥ | 保育教材の作成 |
| 13 | 幼児造形教育への実践⑦ | 保育教材の作成 |
| 14 | 幼児造形教育への実践⑧ | 保育教材の作成 |
| 15 | 幼児造形教育への実践⑨ | 保育教材の作成 |
| 16 | 幼児造形教育への実践⑩ | 保育教材を使用した発表 |
| 17 | 幼児造形教育への実践⑪ | 保育教材を使用した発表 |
| 18 | 幼児の発達と造形表現① | 描画における発達段階・子どもの絵の意味の理解 |
| 19 | 幼児の発達と造形表現② | 身体表現・音楽表現と造形表現の理解 |
| 20 | 幼児の発達と造形表現③ | 心を支える美術の力、障害児と造形表現の理解 |
| 21 | 幼児の造形教育への実践⑫ | 行事における造形活動の在り方や方法の理解 |
| 22 | 幼児の造形教育への実践⑬ | 行事における造形活動の在り方や方法の理解 |
| 23 | 幼児の造形教育への実践⑭ | 行事における造形活動の在り方や方法の理解 |
| 24 | 幼児の造形教育への実践⑮ | 行事における造形活動実践・発表 |
| 25 | 幼児造形教育の広がり① | 環境（社会）と連携した幼児造形教育の理解 |
| 26 | 幼児造形教育の広がり② | 環境（社会）と連携した幼児造形教育の理解 |
| 27 | 幼児造形教育の広がり③ | 環境（社会）と連携した幼児造形教育の理解 |
| 28 | 総合制作① | 季節や行事、文化を反映した自由制作 |
| 29 | 総合制作② | 季節や行事、文化を反映した自由制作 |
| 30 | まとめ<br>振り返り | 一年間の振り返り・まとめ |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | こどものうたⅡ | | |
| 必修選択 | 選択 | (学則表記) | こどものうたⅡ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | こどものうた200<br>続こどものうた200 | | 出版社 | チャイルド本社 | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 「こどものうたⅠ」で学んだ歌唱技術を活かし更に音楽的表現力を高めるとともに、保育者として音楽の魅力を伝えるための知識と指導力を身につける。 |
| 到達目標 | 子どもの年齢ごとの声域や言語、歌唱の発達について特徴を述べることができ、適切な指導ができる。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | |
| 関連科目 | こどものうたⅠ |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 村上　陽子 | 実務経験 | |
| 実務内容 | | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の流れ、到達目標、評価 |
| 2 | 3歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 3 | 3歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 4 | 3歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 5 | 3歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 6 | 3歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 7 | 成果発表① | 歌唱発表 |
| 8 | 4歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 9 | 4歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 10 | 4歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |

| | | |
|---|---|---|
| 11 | 4歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 12 | 4歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 13 | 成果発表② | 低年齢児（3歳）の模擬指導立案 |
| 14 | 成果発表② | 低年齢児（3歳）の模擬指導発表 |
| 15 | 成果発表② | 低年齢児（3歳）の模擬指導発表 |
| 16 | 5歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 17 | 5歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 18 | 5歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 19 | 5歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 20 | 5歳児の歌唱指導 | 歌唱練習 |
| 21 | 成果発表③ | 歌唱発表 |
| 22 | 成果発表③ | 歌唱発表 |
| 23 | あそびうた | あそびうたの実践 |
| 24 | あそびうた | あそびうたの実践 |
| 25 | あそびうた | あそびうたの実践 |
| 26 | いろいろな歌の形態に親しむ | 歌唱練習 |
| 27 | いろいろな歌の形態に親しむ | 歌唱練習 |
| 28 | 成果発表④ | 4・5歳児の模擬指導立案 |
| 29 | 聖愛発表④ | 4・5歳児の模擬指導発表 |
| 30 | 成果発表④ | 4・5歳児の模擬指導発表と一年の振り返り |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 実習指導Ⅱ | | |
| 必修選択 | 選択 | （学則表記） | 実習指導Ⅱ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 2 | 60 |
| 使用教材 | なし | | 出版社 | なし | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 実習の目的を明確に理解し、日誌、指導案の書き方を習得して実習に臨む準備をする。<br>各年齢の発達を理解し、発達にあった子どもへの関わり方を知る。 |
| 到達目標 | １．日誌の記録方法や指導案作成について学び、発達にあった記録や立案ができるようになる。<br>２．模擬保育等を通じて、部分実習や責任実習へのイメージが持てるようになる。<br>３．自身の課題を明確化し、実習での学びを深めることができる。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | |
| 関連科目 | 実習指導Ⅰ・実習指導Ⅲ |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 山崎　恭子 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 幼稚園にて担任や園長として25年間勤務した実務経験を基に、実習の事前事後指導を行う。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 授業ガイダンス<br>教育実習について | 授業ガイダンス、実習について |
| 2 | 実習日誌① | 実習日誌演習 |
| 3 | 実習日誌② | エピソード記録演習 |
| 4 | 教育実習Ⅰガイダンス<br>実習オリエンテーションの準備 | 実習オリエンテーションに向けての準備<br>プライバシー保護と守秘義務について |
| 5 | 指導案の書き方 | 部分実習の書き方について学ぶ |
| 6 | ３歳以上児の発達と特徴 | ３歳以上児の発達特徴について理解 |
| 7 | 様々な保育内容① | 実践力をつけるための様々な保育を知る |
| 8 | お礼状の書き方<br>部分実習指導案作成① | お礼状の書き方を知る<br>自己課題に沿った指導案を作成する |
| 9 | 部分実習指導案作成② | 自己課題に沿った指導案を作成する |
| 10 | 部分実習指導案作成③<br>実習直前指導 | 自己課題の準備と確認<br>実習の心構えについて最終確認 |

| | | |
|---|---|---|
| 11 | 実習（Ⅰ期）振り返り | 実習の統括・自己評価 |
| 12 | 教育実習Ⅱガイダンス<br>責任実習について | 実習の目的と概要・実習規定・実習の心構え<br>責任実習について指導案のたて方を学ぶ |
| 13 | 責任実習に向けての模擬保育① | ３歳以上児の模擬保育を行うための準備（立案・指導案作成） |
| 14 | 責任実習に向けての模擬保育② | ３歳以上児の模擬保育を行うための準備（立案・指導案作成） |
| 15 | 責任実習に向けての模擬保育③ | ３歳以上児模擬保育発表 |
| 16 | 指導案作成 | 各自の課題に沿った指導案作成 |
| 17 | 指導案作成 | 各自の課題に沿った指導案作成 |
| 18 | 実習直前指導 | 自己課題の準備と確認<br>実習の心構えについて最終確認 |
| 19 | 実習（Ⅱ期）振り返り | 実習統括・自己評価 |
| 20 | 実習日誌最終不備確認 | 実習日誌の最終確認<br>不備等の確認や訂正 |
| 21 | 考察練習のための模擬保育① | エピソード記録や事例紹介に基づく模擬保育準備（検証・立案） |
| 22 | 考察練習のための模擬保育② | エピソード記録や事例紹介に基づく模擬保育準備（検証・立案） |
| 23 | 考察練習のための模擬保育③ | エピソード記録や事例紹介に基づく模擬保育準備（検証・立案） |
| 24 | 考察練習のための模擬保育④ | エピソード記録や事例紹介に基づく模擬保育準備（発表） |
| 25 | 乳児及び３歳未満時の発達と特徴 | 乳児及び３歳未満児の発達と特徴の理解 |
| 26 | ３歳未満児向け教材研究 | 乳児および３歳未満児に向けての教材研究 |
| 27 | ３歳未満児向け教材研究 | 乳児および３歳未満児に向けての教材研究 |
| 28 | ３歳未満児向け教材研究 | 乳児および３歳未満児に向けての教材研究・発表 |
| 29 | 保育者としての職業倫理<br>保育者の専門性 | 子どもの権利条約を元に保育を考える<br>保育に求められる専門性と保育の質の向上に向けて |
| 30 | １年間のまとめ | １年間の振り返りをする |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 表現 | | |
| 必修選択 | 選択 | (学則表記) | 表現 | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 1 | 30 |
| 使用教材 | 表現指導法ー感性を育て表現の世界を拓く | | 出版社 | 上野奈初美編著萌文書林 | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 保育者として子どもの表現力をどのように育て、援助していけばよいかについて学ぶ。子どもと豊かに関わり、育ちを支えるために必要な保育者自身の感性とそれを支える表現技術の獲得を目指す。さらに、保育の場における「表現」に関する課題、他の領域との関連性についても理解を深める。 |
| 到達目標 | 1．保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。<br>2．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。<br>3．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。<br>4．保育の多様な展開について具体的に理解する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | 小田原短期大学関連科目 |
| 関連科目 | 健康・人間関係・環境・言葉 |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 山崎　恭子 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 幼稚園にて担任や園長として25年間勤務した実務経験を基に、こどもの表現・あそびを教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方・到達目標・成績評価の基準について |
| 2 | 子どもにとっての表現とは | 第1講　子どもの「表現」に関する基礎的事項について理解する |
| 3 | 領域「表現」とは | 第2講　領域「表現」の基本について理解する |
| 4 | リズムを楽しむ子どもの身体表現 | 第3講　子どもの身体表現とリズムとの密接な関わり合いを学ぶ |
| 5 | スポーツの名場面を表現に | 第4講　スポーツの特性を知り身体表現との相違点や類似点を学ぶ |
| 6 | 音楽表現活動の指導① | 第5講　音楽表現活動の基盤である聴くことについて理解し、声を使った表現遊びの実践方法や保育者の関わり方を学ぶ。また、保育者自身の表現力を培う |
| 7 | 音楽表現活動の指導② | 第6講　楽器や音の出る素材を使った表現遊びの実践方法や保育者の関わり方を学ぶ。また、保育者自身の表現力を培う |

| | | |
|---|---|---|
| 8 | 幼児の造形表現の特質 | 第7講　幼児の造形表現の特徴を学ぶ |
| 9 | 造形の材料と技法 | 第8講　造形表現の材料や技法について学ぶ |
| 10 | 言葉による表現① | 第9講　子どもにとっての言語表現とは何かについて学ぶ |
| 11 | 言葉による表現② | 第10講　言葉を媒介とした表現遊びについて理解する |
| 12 | 中間振り返り | 各回の内容振り返り、理解度確認 |
| 13 | 自然と生活 | 第11講　年度当初の保育活動の特色について理解する |
| 14 | 夏のイメージから表現へ | 第12講　夏のイメージから多様な表現が生まれることを学ぶ |
| 15 | 総合的音楽表現活動の指導 | 第13講　行事を通して子どもの自主性や表現力、協働する力を育むための保育者の関わり方や計画の実践方法を学ぶ |
| 16 | 総合活動計画の立案 | 第14講　部分実習指導案を作成できるようにする |
| 17 | 領域「表現」とはの目指すもの | 第15講　現代社会の中で子どもの豊かな表現を育むための課題について考える |
| 18 | 振り返り | 総復習 |
| 19 | 領域「表現」に関する実践① | 計画→（製作）→実践 |
| 20 | 領域「表現」に関する実践② | 計画→（製作）→実践 |
| 21 | 領域「表現」に関する実践③ | 計画→（製作）→実践 |
| 22 | 領域「表現」に関する実践④ | 計画→（製作）→実践 |
| 23 | 領域「表現」に関する実践⑤ | 計画→（製作）→実践 |
| 24 | 領域「表現」に関する実践⑥ | 計画→（製作）→実践 |
| 25 | 領域「表現」に関する実践⑦ | 計画→（製作）→実践 |
| 26 | 領域「表現」に関する実践⑧ | 計画→（製作）→実践 |
| 27 | 領域「表現」に関する実践⑨ | 計画→（製作）→実践 |
| 28 | 領域「表現」に関する実践⑩ | 計画→（製作）→実践 |
| 29 | 領域「表現」に関する実践⑪ | 計画→（製作）→実践 |
| 30 | 「表現」総まとめ | 保育における「表現」 |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 保育現場演習Ⅱ | | |
| 必修選択 | 選択 | (学則表記) | 保育現場演習Ⅱ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | なし | | 出版社 | なし | |

**科目の基礎情報②**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業のねらい | インターンシップの代替科目とし、学内で保育現場で得られる学びを実践的な授業を通して習得する。 | | |
| 到達目標 | 保育現場の1年間の流れを理解し、流れの目的やねらいと心理学の学びと保育の繋がりについて理解し、実践できる。 | | |
| 評価基準 | 授業内で実施する発表、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。 | | |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上である者。成績評価が3以上の者。 | | |
| 関連資格 | | | |
| 関連科目 | | | |
| 備考 | | | |
| 担当教員 | 橋本　美咲 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 認定こども園にて保育士として3年勤務した経験を基に、保育現場の1年間の流れや目的やねらいと心理の学びと保育の繋がりについて教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 授業ガイダンス | ・授業の目的と到達点への理解<br>・成績の基準を理解 |
| 2 | 保育現場の1年間の流れ① | ・保育現場の1年間の流れの理解 |
| 3 | 保育現場の1年間の流れ② | ・保育現場の1年間の流れの具体的なねらいをとらえる |
| 4 | 保育現場の1年間の流れ③ | ・学生自信が考える理想の年間スケジュール作成 |
| 5 | 保育現場の1年間の流れ④ | ・学生作成年間スケジュール発表<br>・保育現場の1年間の流れまとめ |
| 6 | 保育現場の1日の流れ① | ・保育現場の1日の流れの振り返り |
| 7 | 保育現場の1日の流れ② | ・保育現場の1日の流れを細分化し、活動のねらいを考える |
| 8 | 保育現場の1日の流れ③ | ・保育現場の1日の流れを細分化し、活動の計画① |
| 9 | 保育現場の1日の流れ④ | ・保育現場の1日の流れを細分化し、活動の計画② |
| 10 | 保育現場の1日の流れ⑤ | ・計画した活動の実践① |

| | | |
|---|---|---|
| 11 | 保育現場の1日の流れ⑥ | ・計画した活動の実践② |
| 12 | 保育現場の1日の流れ⑦ | ・計画した活動の実践③ |
| 13 | 保育現場における心理学実践① | ・子どもの姿から見える子どもの心理への理解とアプローチ方法（外部講話） |
| 14 | 保育現場における心理学実践② | ・子どもの姿から見える子どもの心理への理解とアプローチ方法（外部講話） |
| 15 | 振り返りとまとめ | ・ここまでの内容を振り返り、今後に向けた準備を進める |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 保育現場演習Ⅲ | | |
| 必修選択 | 選択 | (学則表記) | 保育現場演習Ⅲ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | なし | | 出版社 | なし | |

**科目の基礎情報②**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 授業のねらい | インターンシップの代替科目とし、学内で保育現場で得られる学びを実践的な授業を通して習得。 | | |
| 到達目標 | 保育現場の1年間の流れを理解し、流れの目的やねらいと心理学の学びと保育の繋がりについて理解し、実践できる。また、保護者との関わりについて理解し実践できる。 | | |
| 評価基準 | 授業内で実施する発表、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する | | |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上である者。成績評価が3以上の者。 | | |
| 関連資格 | | | |
| 関連科目 | | | |
| 備考 | | | |
| 担当教員 | 橋本　美咲 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 認定こども園にて保育士として3年勤務した経験を基に、保育現場の1年間の流れや目的やねらいと心理の学びと保育の繋がりについて教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 授業ガイダンス | ・授業の目的と到達点への理解<br>・成績の基準を理解<br>・保育現場演習Ⅱ振り返り |
| 2 | 保育現場における心理学実践① | ・子どもの姿から見える子どもの心理への理解とアプローチ方法（外部講話） |
| 3 | 保育現場における心理学実践② | ・子どもの姿から見える子どもの心理への理解とアプローチ方法（外部講話） |
| 4 | 保育現場における心理学実践③ | ・保育現場演習Ⅱから継続した外部講話をまとめた新聞作成① |
| 5 | 保育現場における心理学実践④ | ・保育現場演習Ⅱから継続した外部講話をまとめた新聞作成②<br>・新聞発表 |
| 6 | 保育現場における保護者対応① | ・保育現場における保護者対応（外部講話） |
| 7 | 保育現場における保護者対応② | ・保護者対応ケースワーク① |
| 8 | 保育現場における保護者対応③ | ・保護者対応ケースワーク② |
| 9 | 保育現場における保護者対応④ | ・保護者対応ケースワーク③ |

| | | |
|---|---|---|
| 10 | 保育現場における保護者対応⑤ | ・保育現場における保護者対応　まとめ |
| 11 | 保育現場演習Ⅱ・Ⅲまとめの実践① | ・保育現場演習Ⅱ・Ⅲの学びを活かした応用的な実践①（実践計画） |
| 12 | 保育現場演習Ⅱ・Ⅲまとめの実践② | ・保育現場演習Ⅱ・Ⅲの学びを活かした応用的な実践②（朝の会・帰りの会） |
| 13 | 保育現場演習Ⅱ・Ⅲまとめの実践③ | ・保育現場演習Ⅱ・Ⅲの学びを活かした応用的な実践③（主活動） |
| 14 | 保育現場演習Ⅱ・Ⅲまとめの実践④ | ・保育現場演習Ⅱ・Ⅲの学びを活かした応用的な実践④（心理的なケースワーク） |
| 15 | 振り返りとまとめ | ・ここまでの内容を振り返り、今後に向けた準備を進める |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 心理学実践Ⅱ | | |
| 必修選択 | 選択必修 | (学則表記) | 心理学実践Ⅱ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 1 | 15 |
| 使用教材 | なし | | 出版社 | なし | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | ①保育現場の１年の流れの繋がりを学ぶ<br>②学校授業での心理学的な学びを現場で実践し、更なる学びを習得する<br>③子どもと実際に関わり、子どもへの理解を深めると共に考察から学びを得る |
| 到達目標 | ①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。<br>②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。<br>③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。<br>④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。<br>⑤心理学を用いた実践を通じて保育士における保護者、こどもへの支援について総合的に理解する。 |
| 評価基準 | 必要時間数以上の実施を前提に、実習記録や学内課題等を踏まえ本校にて実施<br>※実習先からの評価は無し |
| 認定条件 | 期間内合計で67時間以上の実施かつ学内評価で60点以上となること |
| 関連資格 | |
| 関連科目 | |
| 備考 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 橋本　美咲 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 認定こども園にて保育士として3年勤務した経験を基に、保育現場の1年間の流れや目的やねらいと心理の学びと保育の繋がりについて教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 心理学実践Ⅱ（実習1日目） | ・保育現場にて実習オリエンテーション実施<br>・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 2 | 心理学実践Ⅱ（実習2日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 3 | 心理学実践Ⅱ（実習3日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 4 | 心理学実践Ⅱ（実習4日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 5 | 心理学実践Ⅱ（実習5日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |

| | | |
|---|---|---|
| 6 | 心理学実践Ⅱ（実習6日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 7 | 心理学実践Ⅱ（実習7日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 8 | 心理学実践Ⅱ（実習8日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 9 | 心理学実践Ⅱ（実習9日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 10 | 心理学実践Ⅱ（実習10日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 11 | 心理学実践Ⅱ（実習11日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 12 | 心理学実践Ⅱ（実習12日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 13 | 心理学実践Ⅱ（実習13日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 14 | 心理学実践Ⅱ（実習14日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 15 | 心理学実践Ⅱ（実習15日目） | ・半期の振り返り<br>・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 心理学実践Ⅲ | | |
| 必修選択 | 選択必修 | (学則表記) | 心理学実践Ⅲ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 1 | 15 |
| 使用教材 | なし | | 出版社 | なし | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | ①保育現場の１年の流れの繋がりを学ぶ<br>②学校授業での心理学的な学びを現場で実践し、更なる学びを習得する<br>③子どもと実際に関わり、子どもへの理解を深めると共に考察から学びを得る |
| 到達目標 | ①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。<br>②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。<br>③既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。<br>④保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。<br>⑤心理学を用いた実践を通じて保育士における保護者、こどもへの支援について総合的に理解する |
| 評価基準 | 必要時間数以上の実施を前提に、実習記録や学内課題等を踏まえ本校にて実施<br>※実習先からの評価は無し |
| 認定条件 | 期間内合計で67時間以上の実施かつ学内評価で60点以上となること |
| 関連資格 | |
| 関連科目 | |
| 備考 | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 橋本　美咲 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 認定こども園にて保育士として3年勤務した経験を基に、保育現場の1年間の流れや目的やねらいと心理の学びと保育の繋がりについて教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | 心理学実践Ⅱ（実習1日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 2 | 心理学実践Ⅱ（実習2日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 3 | 心理学実践Ⅱ（実習3日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 4 | 心理学実践Ⅱ（実習4日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 5 | 心理学実践Ⅱ（実習5日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 6 | 心理学実践Ⅱ（実習6日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |

| | | |
|---|---|---|
| 7 | 心理学実践Ⅱ（実習7日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 8 | 心理学実践Ⅱ（実習8日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 9 | 心理学実践Ⅱ（実習9日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 10 | 心理学実践Ⅱ（実習10日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 11 | 心理学実践Ⅱ（実習11日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 12 | 心理学実践Ⅱ（実習12日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 13 | 心理学実践Ⅱ（実習13日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 14 | 心理学実践Ⅱ（実習14日目） | ・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |
| 15 | 心理学実践Ⅱ（実習15日目） | ・半期の振り返り<br>・保育所の生活に参加し、心理学を用いた実践を通して、乳幼児や発達支援への理解を深めるとともに、保育や施設の機能と保育士の職務について学ぶ<br>・学びの記録としてドキュメンテーションをスプレットシートに入力 |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 教育心理学Ⅰ | | |
| 必修選択 | 必修 | (学則表記) | 教育心理学Ⅰ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | 教育心理学の理論と実際 | | 出版社 | 図書文化 | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 幼児児童生徒のさまざまな行動の背景には、心理学的要因が介在している。その発生メカニズムを理解し支援していく上で必要な基礎知識と技法を、教育心理学の知見を活用して習得する機会を提供する。 |
| 到達目標 | 1．幼児児童生徒（障害特性をもつ幼児児童生徒を含む）に対する教育活動を効果的に進める上で必要な、心理学的知識や技術の習得を目指す。<br>2．保育・学校教育において出会う問題を解決し、幼児児童生徒の成長を促進する心理教育的援助サービスの基本的な理論と実践について学ぶ。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | |
| 関連科目 | 心理学概論　認知心理学　発達心理学 |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 井芹　まい | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | スクールカウンセラーとして私立中学･高等学校にて5年間勤務した経験を基に、幼児児童生徒の成長を促進する心理教育的援助サービスの基本的な理論と実践について教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | ガイダンス<br>教育を支える心理学 | 授業の進め方/教育心理学とは/教育心理学の歴史/教育心理学の研究法 |
| 2 | 発達とは① | 発達段階について/各理論の説明① |
| 3 | 発達とは② | 発達段階について/各理論の説明② |
| 4 | 乳幼児期の発達過程① | 運動発達と身体発達/言語の発達/愛着/遊びの発達① |
| 5 | 乳幼児期の発達過程② | 運動発達と身体発達/言語の発達/愛着/遊びの発達② |
| 6 | 児童期の発達過程① | 身体発達/認知発達① |
| 7 | 児童期の発達過程① | 身体発達/認知発達② |
| 8 | 思春期・青年期の発達過程① | アイデンティティ/友人関係/キャリア発達① |
| 9 | 思春期・青年期の発達過程② | アイデンティティ/友人関係/キャリア発達② |

| | | |
|---|---|---|
| 10 | 発達的変化① | 友人関係の発達的変化/道徳性の発達的変化① |
| 11 | 発達的変化② | 友人関係の発達的変化/道徳性の発達的変化② |
| 12 | 性格① | 類型論/特性論/防衛機制① |
| 13 | 性格② | 類型論/特性論/防衛機制② |
| 14 | テスト | 試験 |
| 15 | これまでのまとめ① | 保育・学校現場における具体的な対応場面と関連する心理学的知識の整理・解説① |
| 16 | これまでのまとめ② | 保育・学校現場における具体的な対応場面と関連する心理学的知識の整理・解説② |
| 17 | 欲求① | 欲求階層説/達成動機・親和動機/自己効力感① |
| 18 | 欲求① | 欲求階層説/達成動機・親和動機/自己効力感② |
| 19 | 知能① | 知能と構造/知能の測定/学力と創造性① |
| 20 | 知能② | 知能と構造/知能の測定/学力と創造性② |
| 21 | 学習とは① | 古典的条件づけ/道具的条件づけ/記憶と忘却/メタ認知① |
| 22 | 学習とは② | 古典的条件づけ/道具的条件づけ/記憶と忘却/メタ認知② |
| 23 | 動機づけ① | 内発的動機づけ・外発的動機づけ/自己調整学習① |
| 24 | 動機づけ② | 内発的動機づけ・外発的動機づけ/自己調整学習② |
| 25 | 学習の方法・形態・学習評価① | アクティブラーニング/協同学習/教育評価① |
| 26 | 学習の方法・形態・学習評価② | アクティブラーニング/協同学習/教育評価② |
| 27 | 教師の指導行動・学級集団づくり① | PM理論/教師の勢力資源/学級集団の発達過程/QU① |
| 28 | 教師の指導行動・学級集団づくり② | PM理論/教師の勢力資源/学級集団の発達過程/QU② |
| 29 | テスト | 試験 |
| 30 | これまでのまとめ③ | 保育・学校現場における具体的な対応場面と関連する心理学的知識の整理・解説③ |

# シラバス

**科目の基礎情報①**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 授業形態 | 演習 | 科目名 | 発達心理学Ⅰ | | |
| 必修選択 | 必修 | (学則表記) | 発達心理学Ⅰ | | |
| 開講 | | | | 単位数 | 時間数 |
| 年次 | 2年 | 学科 | こども心理学科 | 2 | 30 |
| 使用教材 | 外山紀子・安藤智子・本山方子,2019,<br>生活の中の発達ー現場主義の発達心理学ー | | 出版社 | 新曜社 | |

**科目の基礎情報②**

| | |
|---|---|
| 授業のねらい | 人間は生涯を通じて発達する存在である。乳児期から老年期まで各期の発達段階について身体的・心理社会的発達を概観し、対象理解や人間が人との関係のありさまに相互に影響されながら成長発達する存在であることを理解し、変化する発達段階に応じた保育・教育が展開できる素地としたい。また自己理解につながることになることをねらいとする。 |
| 到達目標 | 1．発達心理学について基本的視野や要素を理解する。<br>2．人間の成長発達過程の特徴を生涯発達の考え方に基づいて理解する。 |
| 評価基準 | 授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。 |
| 認定条件 | 出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。 |
| 関連資格 | |
| 関連科目 | |
| 備考 | 原則、この科目は対面授業形式にて実施する。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 担当教員 | 滝沢　和香奈 | 実務経験 | ○ |
| 実務内容 | 保育所･未就園児親子支援･プレーパークにて、保育士として4年間勤務をした実務経験を基に、人間の成長発達過程の特徴を生涯発達の考え方について教授する。 | | |

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

**各回の展開**

| 回数 | 単元 | 内容 |
|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業の進め方，ねらい，評価方法等説明 |
| 2 | 運動機能の発達 | 乳児期：身体から始まる世界の探索 |
| 3 | 情動の発達 | 乳児期：社会情緒的発達の基盤 |
| 4 | 情動の発達 | 乳児期：アタッチメントの形成・感情制御の発達 |
| 5 | 第１回復習 | ここまでの確認を行います |
| 6 | 言語機能の生涯発達 | 幼児期：ことばを獲得する道筋 |
| 7 | 遊びの発達 | 幼児期：遊びが広げる幼児の世界 |
| 8 | 認知の発達 | 幼児期：事物と心に関する幼児の理解 |
| 9 | 第２回復習 | ここまでの確認を行います |

| | | |
|---|---|---|
| 10 | 認知の発達 | 学童期：自律的な学習への転換 |
| 11 | 学童期の社会的変化 | 学童期：学級や授業への参加にみる社会的変化 |
| 12 | これまでのまとめ | まとめ |
| 13 | 自己意識の発達 | 乳幼児期～青年期：自己意識の発達 |
| 14 | 青年と教育環境の適合 | 青年期：適応に影響を与える要因 |
| 15 | 性の発達 | 青年期：性の発達と関係性における暴力 |
| 16 | 問題行動 | 青年期：問題行動と向き合う |
| 17 | 第３回復習 | ここまでの確認を行います |
| 18 | 働くこと・育てること | 成人期：働くこと・育てることとは |
| 19 | 社会での役割 | 成人期：多様な関係性のなあななかで役割を果たす |
| 20 | 超高齢化社会を生きる | 高齢期：高齢期の発達的特徴 |
| 21 | 超高齢化社会を生きる | 高齢期：高齢期の発達的特徴 |
| 22 | 第４回復習 | ここまでの確認を行います |
| 23 | 言葉と思考 | 教科書P.48 コラム外言と内言について |
| 24 | ピアジェの発達理論 | 感覚運動知能の段階から形式的操作期まで，などピアジェの発達理論についてまとめる |
| 25 | 義務教育の中の幼児理解 | 教科書P.64コラムを読んでグループワークを行う |
| 26 | 心の理論 | P.80,P.232心の理論とは何かについてまとめ，発表する |
| 27 | 過興奮性 | 教科書P.148コラム　ギフテッドにおける過興奮性について |
| 28 | エリクソンの発達理論 | ライフサイクル論などエリクソンの発達理論についてまとめる |
| 29 | 人類の進歩のために | ウェルビーイングとは |
| 30 | 年間総復習 | 総まとめ |